

『生長の家』創始者 谷口雅春先生を学ぶ会

# 第8回 全国大会

新たな飛躍の時！—真理の光で令和の御代を輝かそう！  
人を救い、国を救う、大いなる愛の運動を！

日時：令和2年6月21日(日)  
10時～16時

会場：明治神宮 神宮会館

ゲスト講師 藤原正彦氏 (数学者・作家)

昭和18年旧満州新京で作家の新田次郎と藤原ていの次男として生まれる。東京大学理学部数学科大学院修士課程修了。お茶の水女子大学名誉教授。昭和53年『若き数学者のアメリカ』で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。『国家の品格』をはじめ著書多数。



## 神癒と喜びの体験が続々と！

不登校になった子供が、  
家族を本当の信仰に導いてくれた

福岡県小竹町 井野口 美幸 (44)



私の息子は、現在、短大二年生、毎朝元気に大学に通っています。数年前はそういう日が来るなんて、とても思えない日々を送っていました。

中学2年生の時です。部活の先生と意見

が合わず、途中で帰宅してきたことがありました。それ以来、腹痛や頭痛を訴えることが多くなり、次第に学校にも行かなくなりました。「学校に行くのは当たり前」と、私達夫婦は思っていました。息子には毎日厳しく当たっていました。いま思うと、息子を追い詰めるだけの逆効果だったのかもありません。息子は耐えられない頭痛に苦しみました。まさか、わが子が不登校になるなんて思いもしませんでした。私も主人も普通に大学まで出ているので、子供たちもそういう道をたどるだろうと思っていました。

まずは、息子の体調を戻すことだと思い、評判の病院に連れて行きました。お医者様

から、発達障害のひとつであるアスペルガー症候群であると云われました。「息子はこれからどうなっていくのだろうか……」という不安ばかりが起きました。

息子が少し落ち着き、体調も良くなった頃、主人が、息子を「九州練成会」に連れて行くと言いました。平成26年9月、第1回の九州練成会に参加した息子は、何かのスイッチが入ったように「高校に行く」と言い出したのです。何か自分の居場所を見つけたようでした。

それから、体調の良い日は、学校にも時間をずらして別室に登校するようになりました。その後、息子は高校の受験にも合格し、高校では学校を休むことなく毎日通い、息子を大切にしてくださる先生や、気の合う友達にも恵まれました。苦手科目はありましたが、成績も上がり、推薦で短大に合格することができました。

家族のあるがままの姿を受け入れ、「神の子」としての無限の可能性を信じるようになったとき、すべてが良い方向へと進んでいきました。いま、子供が自分の選んだ道を生き生きと歩むことができるのは、生長の家を通して出会ったたくさんの方々が、本当の信仰へと導いてくださったお蔭であると感じています。

# 真理を知る心が変わる 運命が好転する!

「ありがとうございます」に

勝る言葉なし

—感謝 誦行で体中の癌が消える

福岡県筑紫野市

小林 一三(80)



8年前のある日の事です。ちよつと体調が悪くなつて病院で診てもらつと、体のあちこちから癌が見つかったのです。膀胱癌、大腸癌、食道癌、胃癌…。癌の病名を医者からいつべんに言われました。

そんな時、生長の家の神誌に載っていた体験を読んだのです。それは、おじさんの指が開かなくなつて、講師の方から『ありがとうございます』と唱えながら、その言葉を、開かなくなつた指で1万回書きなさい』と指導されて毎日毎日実践すると、1万回を書き終えた時、指が開くようになったという話でした。

これはすごいと感動した私は、自分でもやろうと思つたのです。ところが仕事をしている身で、なかなか書くことは難しい。だったら、朝から晩まで、時間のある限り「ありがとうございます」と言葉に出して言おうと思つたのです。

それからは、車を運転していても、歩い

ていても、たとえ周りに人がいてもかまわずに、「ありがとうございます」を誦行し続けました。

半年ほど経つた頃です。山川草木のすべてが輝いて見えるのです。それはもうありがたくて、ありがたくて、いのちがあつて生かされていることに、心から感謝することができました。

そんな時、病状が一気に吹き出てくるように体調を崩しました。すぐに入院するようになったのですが、不思議と不安な気持ちはありませんでした。

そして、胃を3分の2ほど切除する手術を行いました。入院している間、体をいろいろ検査してもらい、それを京都の大病院に診断してもらつたのですが、結果がなかなか戻つてこないのです。ようやく検査結果が出たというので医者に話を聞いてみると、大腸にあつたものも、膀胱も、食道も、すべて癌が消えてしまつていたのでした。結局、2カ月ほどで退院することができました。

今では健康そのものです。「ありがとうございます」の言葉のおかげで恐怖心は一切なく、これに勝る言葉はありません。「人間の子、病なし」の御教えは真実だと、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

## 反社会的勢力から一大転身して 土木会社を起業

茨城県神栖市 樋口 龍章(48)



私は、高校1年生のとき問題を起こして退学になり、その流れで反社会的勢力

の人たちとも付き合うようになり、20歳の時暴力団に入ったのです。しかし、いつ頃からか、嫌になり、組を辞めたいと思うようになりました。

そんな時、母親に相談すると生長の家を勧められ、平成16年の2月、初めて練成会に参加しました。

2日目のこと。背中の刺青を見られたくないのでお風呂に入らなかつたのですが、ある講師が声をかけてくれました。そして、その講師と一緒にお風呂に入つてくれたばかりか、刺青のある背中まで流してくれたのです。その姿に大変心動かされ、真剣に受けるようにしました。

神想観をやりはじめたら、急に心がすつと軽くなりました。『人間は神の子、無限量。やれば出来ないことはない。すべて実現できる』というお話には心から感動しました。それを機に生長の家の教えを学ぼうと思

い、同じようにヤクザの道から転身して建設会社を経営している信徒の社長さんを紹介してもらい、そこで働くことになりました。33歳の時でした。

こつこつと働いて、給料を頂けるといふことの尊さを知り、人生の本当の喜びが分かりました。2年間、その埼玉の会社で一所懸命に働いた後、地元・茨城に帰つてきました。その際、暴力団も完全に辞めることができたのでした。

平成18年、地元に戻つてくる時、土木会社の社長と縁があり、その人のおかげもあつて、私は土木等の仕事を手がける「大海工業」という会社を起ち上げました。最初は一人で始めた会社も、従業員が一人、二人と増えていき、今では従業員が36人、協力会社などを含めると100人ほどの人たちと仕事をしています。業績も当初年商200万円だったのが、今では10億円にまでに繁栄しています。

考えてみると、本当に奇蹟的な出会いばかりです。やっぱり神様がいて、私を導いてくださっているんだと実感します。仕事がある、健康で働ける事に喜びを感じられるのは、全て生長の家の教えのおかげ。これまでいろんな人に助けてもらったので、そのご恩返しに気持ちで、働いています。

## 今、ここから光いっぱい的人生が始まる!